

2020年度 JT SDGs貢献プロジェクト/助成事業一覧

助成金額計：4,409万円

助成事業数：26件

※以下、応募書類記入事項をもとに記載

No.	団体名	事業名	重点分野	助成金額	事業概要	JT窓口支社
1	一般社団法人Colabo	困難を抱えた女子に対するアウトリーチ支援事業	格差是正	2,000,000	虐待や貧困などの理由で家に帰れず繁華街にいる中高生の少女たちを対象に、バスを使ったカフェを拠点にして声かけを行い、保護や支援に繋げる。	東京支社
2	特定非営利活動法人 地域福祉を考える会	子ども支援事業	格差是正	2,000,000	低所得世帯の子どもを対象とした子ども食堂と学習支援を実施する。	神奈川支社
3	一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会	若い世代の地域コミュニティで未来を切り開く	環境保全	2,000,000	子どもから大人までを対象とした環境教育、農業に関する講座と実践、竹林整備と竹粉の活用に関する実証実験を行う。	東海支社
4	特定非営利活動法人F.O.P	時代に合わせた里山の森価値を見出すプロジェクト	環境保全	1,885,534	村の主要産業である観光農園に隣接している森が長年放置され、真暗で掛かり木が多く危険で近づけなかった。二年間整備して、やっと人が入れるようになったので、さらに小さな子どもも安心して過ごせるよう整備し、様々な人が継続的に関わられる美しい里山の森に戻して、子供の自然離れと、森林荒廃や獣害問題を無くしたい。	上信越支社
5	認定特定非営利活動法人ソーシャルデザインセンター淡路	置き去りにされた“自然”と“人”の力を生かし、持続可能な地域社会のモデル創生	環境保全	1,999,400	各地の放置山林は本来“炭素固定能”を有し、“生物多様性”を守る大事な環境場である。この山の林を切り出し、高付加の木工品として製作販売する。これは就労弱者にも活動の場を提供し、“誰も置き去りにしない”というSDG'sの目標にも合致する。また、これにより荒廃した山林が近場の豊かな自然として復活する。	大阪支社
6	特定非営利活動法人わかやま環境ネットワーク	わかやま海洋サミットプロジェクト	環境保全	1,219,080	和歌の浦干潟でのアザリ資源量増加による潮干狩りの復活、並びに潮干狩り復活に向けたプロジェクトを含む、海に関連する取組みを実施している学校や企業が参加し、発表や意見交換等を行う「わかやま海洋サミット」を開催する。	大阪支社
7	一般社団法人EKIMAE MALL	防災情報誌の制作	災害分野	1,250,000	福井は震災、水害、雪害があり災害の多い地域です。コロナウイルスでは、日本、国民の防災への意識の低さがあらわになりました。防災に対しての意識・知識を高める必要があると考えます。フリーペーパー、WEBにより福井の災害歴史を知り、どう対応していくのかを考える媒体の制作を行います。	北陸支社
8	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	若者・現場体験型環境保全SDGs実践塾「グリーンジム」の開校	環境保全	2,000,000	本会が環境保全活動を展開する水辺や里山を学び場に、大学生・高校生等の若者による現場体験型環境保全SDGs実践塾「グリーンジム」を開校する。水辺・里山の環境改善を進めると共に若者に現場の段取りや地域住民との連携、チームワーク、安全・効率性確保、達成感の実感など実践活動を通じ「現場学」を学んでもらう。	東海支社
9	株式会社ヘラルポニー	アート原画/複製画販売事業	格差是正	2,000,000	知的障害のある人が描くアート作品の原画および複製画の販売事業の展開。アート販売における一部使用料を作者に支払いを行うことで、低賃金格差の解消と障害のある福祉施設で生まれるアート作品の価値向上を図っていききたい。	東北支社
10	一般社団法人 コミスクえひめ	学習格差を解消する地域の学び舎創造事業	格差是正	1,302,000	デジタルデバイスや経済格差など、地域や家庭の状況により生じている学習格差を解消するため、地域の力を活用した学びを支える社会基盤を構築して子供たちの健やかな学びを保証するとともに、地域教育の充実・活性化を通じた持続可能な地域社会の実現を図る。	四国支社
11	青森大学観光文化研究センター	地域の自然資源を活かすのSDGs市民育成事業	環境保全	2,000,000	森に向きあう県民を育てることを軸に、森、の保全・利用をテーマに自然由来の資源を理解し豊かな暮らしを実現できる市民の育成を目指す。体験型プログラム展開を通じてSDGsを意識できる市民ネットワークを構築する場を整備する。森、がつく県名は青森県だけ、持続可能な青森型SDGsのライフスタイルを提唱する。	東北支社
12	特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム	世界初！河川/海洋ごみが学べる環境教育アプリ「FLOW」制作・活用プロジェクト	環境保全	1,988,710	荒川沿川の環境教育（江戸川/江東区小学校、教育委員会の教員向け研修等）を受け入れてきた当団体だが、COVID-19の影響で現場での環境教育支援ができなくなりつつある。その代替学習として河川/海洋ごみ問題について学べる環境教育アプリ「FLOW」を制作・活用する。	東京支社
13	大津市企業局	マイボトルを持ち歩く未来のライフスタイル革命	環境保全	2,000,000	マイボトルを持ち歩きペットボトルの製造から輸送にかかる環境負荷を低減することで、脱炭素化社会の実現と琵琶湖の環境保全を目指す。また、マイボトル活動と共にマイボトルが空になった時の給水スポットの環境整備（冷水機の設置など）や水道水への理解を深めるイベントを行う。	大阪支社
14	株式会社福島中央テレビ	台風19号から1年～災害対策と環境保全の福島県全域への啓蒙事業	環境保全	2,000,000	台風19号被害から1年の10月に、番組を通じて、避難対策や被災後の地域活性化について自社制作番組で紹介。また、大規模災害を引き起こす要因の一つとして考えられる地球温暖化の現象と対策について、専門家や地域の声を共有し、対策を考えるシンポジウムを開催、環境保全活動への意識を高め自分事化する機会とする	東北支社
15	NPO法人フーズマイルぐら	食育弁当とシニアで取り組む団地活性化事業	格差是正	980,000	相武台団地に住むシニアが主となり、相武台団地内外に暮らしシニアや周辺企業へ食育弁当をつくり、また直接それぞれのニーズに合わせた食育弁当を配達することで活躍の場をひろげる。	神奈川支社
16	一般社団法人フードバンクいしのまき	食品ロス削減推進の啓発とフードバンクによる食糧支援	格差是正	1,840,000	家庭や企業で何らかの理由で生じた余剰食品の寄贈を受け、生活に窮している世帯へ生活相談機関等を通じてフードバンク食品を提供する。その提供する食品については、食品ロス削減推進の啓発活動も兼ね、個人からの食品寄贈に対し「フードライブ」の拠点を宮城県北部で多数拠点を設置するとともに地元企業の協力も得る。	東北支社

2020年度 JT SDGs貢献プロジェクト/助成事業一覧

助成金額計：4,409万円

助成事業数：26件

※以下、応募書類記入事項をもとに記載

No.	団体名	事業名	重点分野	助成金額	事業概要	JT窓口支社
17	特定非営利活動法人ここからKit	「届ける支援」で子育て家庭の孤立防止事業～ホームスタートから、ひろがる笑顔のおすそわけプロジェクト～	格差是正	1,133,000	「ホームスタート」とは、未就学児が1人でもいる家庭に研修を受けた地域の子育て経験者が訪問する「家庭訪問型子育て支援ボランティア」です。親と一緒に家事育児をしながら共に過ごす伴走型の支援です。それに併せて、ひとり親や困窮家庭への支援物資を通してしんごの軽減へとつなげていく。	大阪支社
18	認定特定非営利活動法人あおもりNPOサポートセンター	防災・減災をSDGsの視点で考えるワークショップ	災害分野	695,680	世界中で災害の件数や規模が拡大し、日本でも各地で災害が頻発していることから、日頃より防災・減災について取り組む必要がある。災害の原因を環境・経済面から考え、被災地の課題を社会問題として捉えることでSDGsの17の目標と紐付けし、達成に向けて何をすべきか、何ができるかを考え、防災・減災へと繋げる。	東北支社
19	特定非営利活動法人 蜘蛛の糸	コロナ禍と闘う自殺対策	格差是正	2,000,000	「新型コロナ」によるインバウンドの禁止、移動制限、営業自粛等によって国内経済は大きく収縮した。倒産に伴う中小企業経営者、解雇・失業・雇止め若者、「コロナ中」の精神不安が引き起こす自殺者の増加が懸念される。経済収縮と心理不安に対応する自殺予防民間団体による全県規模の「いのちの総合相談会」を実施する。	東北支社
20	NPO法人アフリカヘリテイジコミティー	ノヴィーニエこども食堂&こども寺子屋	格差是正	1,000,000	国籍を問わず幼児から未成年、保護者、シニアの方々を対象に、横浜青葉区と相模原中央区にて月4回、無償の食事、学習や体験的活動の場を提供。地域交流・国際交流のできるこどもたちの「第二の家」となる環境を作り、孤食・孤立、引きこもりを防ぎ、こどもたちの食生活の改善、心身の健全育成に貢献していく。	神奈川支社
21	特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート	次代に繋ぐ！四国の右下発SDGs探究への挑戦	環境保全	1,800,000	当法人が活動する徳島県南部地域は、海・山・川など豊かな自然に囲まれているが、人口減少による林業の衰退や農耕地の荒廃に伴う自然災害、鳥獣害、海洋プラスチック等の課題を内包する。この地域を青少年がSDGsについて探究活動できるフィールドとすることにより環境保全と地域活性化を両立させる。	四国支社
22	さっぽろレインボープライド実行委員会	LGBTパレード開催を通じた、性的マイノリティ当事者の抱える諸問題（存在の否定・孤立・社会制度上の不平等）の解消に関する事業	格差是正	2,000,000	①パレードの開催（毎年9月）：当事者や社会に広く働きかける機会となりうる。 ②ガイドブックの発行と配布（発行は7～8月）：LGBTに関する正確かつ肯定的な情報を広める手段として開催ごとに作成。 ③関連イベントの開催（通年）当事者交流会でのLGBTの孤立緩和、講演会での社会構造の再考の促進などが目標。	北海道支社
23	富山市	とほ活ベンチプロジェクト事業	格差是正	2,000,000	高齢者やこども、周辺で働く人や旅行者など、多様な歩行者が集まるまちなかにおいて、歩行者が気軽に利用できるベンチ「とほ活ベンチ」を増やし、誰もが安心して快適に歩ける環境を整備することによって、歩く上での格差の是正を目指す。	北陸支社
24	特定非営利活動法人おさんぼや	子育て家庭から緑を増やそう！オンライン&コミュニティラジオの緑化推進事業	環境保全	1,000,000	コロナ禍において、未就学児家庭がコミュニティラジオやオンラインを通じて、仲間とコミュニケーションを図りながら、各家庭で緑に触れ自然体験を重ねていくことで、自然への親しみや楽しみ方を知り、自分の住んでいる地域社会を一人一人が創ることを目指す。	東海支社
25	一般社団法人 花降る街仙台	ゴミを減らし、ガーデンを増やす。「杜の都、仙台」計画	環境保全	2,000,000	自分たちの街を歩きながら、ゴミを減らし、コミュニティガーデンの手入れもし、自分たちの手で環境を保全します。仙台の街には、「杜の都」という誇れる文化があります。市民ひとりひとりが「杜の都、仙台」の文化を守るという事は、環境保全の意識を高め、行動する事に直結します。	東北支社
26	特定非営利活動法人サンクチュアリエヌピーオー	海洋ごみ削減へ、遠く灘海岸のごみ箱からのアプローチ	環境保全	2,000,000	海岸内にごみ箱を設置し、海岸利用者にポイ捨てさせない、散乱ごみの早期回収や漂着ごみの再流出の防止のためにごみを拾いやすい環境を作る。また、メッセージ性を高めるためイラストを公募、ごみ箱に掲示する。更にwebで海岸ごみの現状やマイクロプラスチック問題を配信し、海洋ごみ削減への意識の向上と周知を図る。	東海支社